

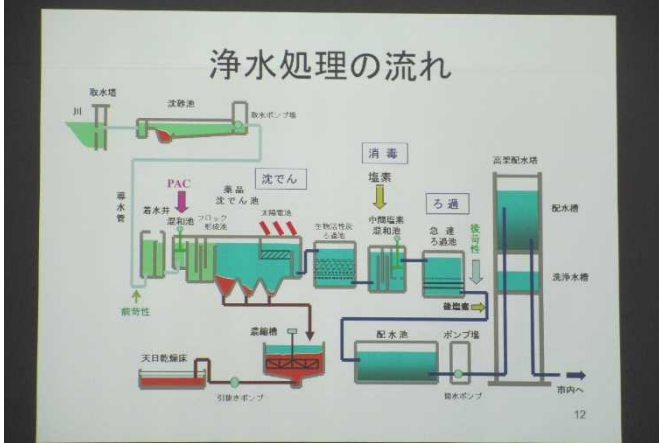


新工SPH通信

VOL.20

新潟県立新潟工業高等学校
SPH推進委員会
平成29年9月12日
Community cooperation

平成29年7月27日(木)工業化学科の1年生は、県内の化学に関連する施設を訪問しました。午前中は県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～に、午後は新潟市水道局 信濃川浄水場の施設見学を行いました。



【午前の部：県立環境と人間のふれあい館 ～新潟水俣病資料館～】

講義 語り部の先生による水俣病のこれまでとこれから 「語り部」稲垣 シズ卫 様
見学 水とわたしたちの生活・水辺のいきものと阿賀野川の暮らし・新潟水俣病

【午後の部：新潟市水道局 信濃川浄水場】

講義「施設概要」「水の浄化のしかた」 施設担当者
見学 浄化施設



【生徒の感想】

- 浄水場で水がきれいであることの大切さ、ありがたさを学ぶことができた。今後も安全でおいしい水を飲むためには川、海を汚さないことが大切だ！
- 知らないということはすごく怖いことだと感じた。メチル水銀が感染すると信じられたことで差別されたりするなどは、無知だったことから起こったことだ。
- 水俣病がどのような病気であるのか、どのように人を苦しめていたか、工業を発展させるためには公害などのデメリットもあることがわかった。

【生徒の変容と身についた力】

- 水俣病ではメチル水銀、アセトアルデヒドが、浄水場では塩素や活性炭などの物質が関わっているが、それらの物質を生かすか、そうでないかは人次第であると考えることができた。
- 川の水をきれいにするための手順や薬品がそれぞれどのような効果を与えるかがわかった。